

【栄区】令和5年第2回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和5年6月8日（木） 午後3時30分～午後4時30分
場 所	栄区役所新館4階8・9号会議室
出席者	<p>【座長】大桑正貴議員</p> <p>【議員：2名】長谷川えつこ議員、輿石かつ子議員</p> <p>【栄区：30名】堀口和美区長、今仁知宏副区長、 横森喜久美福祉保健センター長、 大野豊福祉保健センター担当部長 小野範子福祉保健センター医務担当部長 宍戸由範土木事務所長 ほか関係職員</p>
議 題	<p>1 令和5年度個性ある区づくり推進費予算について</p> <p>2 会議報告書作成について</p>
発言の 要 旨	<p>（説明省略）</p> <p>大桑座長：両親教室、地域育児教室、授乳相談などの事業について今年度、新型コロナウイルス感染症が5類感染症の位置づけとなって順調に進んでいるか。</p> <p>矢口照彦こども家庭支援課長：地域育児教室など、ケアプラザや区役所外の施設で実施している教室については、その施設のルールに従っている。ケアプラザについては、今は予約制を取っているが、変更があると聞いているので対応を検討していく。</p> <p>大桑座長：インフルエンザやRSウイルスなどの感染症も増えていると聞いている。慎重にならざるを得ない部分もあると思うが、バランスを取ってやっていただきたい。</p> <p>長谷川議員：民生委員の負担軽減に向けた基礎調査について、令和7年に一斉改選が行われると思うが、横浜市全体の民生委員の充足率は現在、92%ぐらいを推移している。100%を目指すことは大変なことではあるが、大変重要だと思う。現委員の方々から、どういったことが大変でどのようなところに問題があると感じているかということ聞かせていただくことは重要であるし、やはり若い方をもっと呼び込む必要があると思う。若い方が民生委員を引き受けてくださるような環境づくりや声かけの場などについて、ぜひこの調査でヒアリングをしていただきたい。事業内容や</p>

調査方法等について現時点の状況を伺いたい。

齋藤修身福祉保健課長：民生委員の負担軽減に向けて、令和5年2月に7地区連合の自治会町内会長の皆さんとの懇談会を開催した。ヒアリングを行い、その結果をまとめているところである。次に、6月、7月の2か月間で7すべての民生委員児童委員協議会定例会に伺い、昨年12月に就任された新しい民生委員の方々に、引き受けていただいた要因等をお聞きしたいと考えている。また、長年民生委員・児童委員としてご活躍いただいている方々には、引き続きやっていただいている魅力などを丁寧にお聞きし、今後を担っていく若い世代の方々に、いかに魅力のある活動であるかということをお示しできるような対策を打っていきたいと考えている。その後、学識経験者も交えて民生委員児童委員協議会の地区会長の方々と懇談結果を共有しながら、対策を講じていきたい。これを契機に、局で実施している委嘱委員の見直しなどにも関与して、栄区で集約した意見などを伝えていきたい。

長谷川議員：高齢化率の高い栄区では、民生委員お一人が担当する方の人数が多くなってしまわないかと思うので、引き受けてくださった方の負担がないように進めていただきたい。

さかえ森の魅力づくり推進事業について、区内外に向け森と川が一体となった魅力発信に取り組むということだが、川についてはどのように取り組むのか。魅力発信をメインとするのか、それとも、川の清掃や改善なども含まれているのか。

齋藤誓区政推進課長：花と森と川のまち推進事業と銘打って、花を増やしたり、園芸博覧会に向けた機運醸成等は予定しているが、川について、清掃などの個別具体的な予定は今のところない。園芸博覧会に向けた機運醸成の中で、いたち川周辺含めて検討したい。

長谷川議員：では、どのように魅力発信していくのか。

齋藤誓区政推進課長：森の散策などをされている方の実態調査をしたうえでデジタルコンテンツを作成してPRしていく予定。

長谷川議員：いろいろな方向に魅力発信していただきたい。まだ気づいていない栄区の魅力がこのタイミングで発見していただいて、より多くの魅力をたくさんの方に伝えられるような、そしてそれが栄区に来ていただくことにつながるようなPRをしていただきたい。

生ごみ等堆肥化事業のミニ・キエーロについて、4年程前から発信をして、区民の方々がごみの軽減を進める活動をされていると思う。ミニ・キエーロの普及啓発により栄区内の生ごみはどの程度減ったのか。また、栄区には戸建てで庭を所有している方が多いので、自宅の庭で生ごみの再生を促せるようなPRもできるのではないかと考えている。キエーロについて、今後どのような取組を考えているのか伺いたい。

須賀裕司資源化推進担当課長：キエーロの効果について、栄区で普及啓発を行っているミニ・キエーロはそれほど大きなものではないので、区全体の排出量から考えると、どれだけ削減できたのかということは具体的には把握していない。ただ、その生ごみが堆肥化されて燃やすごみの減量につながっていることは事実である。また、昨年度まではミニ・キエーロの購入補助事業を実施しており、2年度から4年度の3か年で500基程度の実績となった。補助事業は4年度で終了したがキエーロを使用しなくても生ごみの堆肥化は可能であり、今年度は、簡易的なキエーロを区で制作し、講習会形式で区民の方に紹介して、自宅で行って広めていただこうと考えている。

長谷川議員：栄区民ロードレース大会について、昨年度はコロナ禍で様々な調整を重ねての開催だったと思うが、給水所の設置はなく、最初にペットボトル飲料を配付されて10キロ走るという運営方法だったと思う。ペットボトルを持って走る方は誰もおらず何も飲まずに10キロ走られていたので、今回は給水所を設置していただきたい。また、周回コースでの走行だったが、今、自分が何周目を走っているのか分からない方が多くいらっしまったので、その点も改善していただきたい。

谷川みちる地域振興課長：昨年度は感染症対策としてペットボトルを置かせていただいた。感染症対策は徹底していきたいと思うが、ご指摘の点については工夫していきたい。何周目を走っているのか分かるように、というのは技術面での可否もあるため、ご意見を参考にさせていただく。

興石議員：さかえ・森の魅力づくり推進事業について、緑地の利用実態調査とあるが、調査方法や規模感について伺いたい。

齊藤誓区政推進課長：実際に森を散策されている方が、どこからどのコー

スを通してどこに向かっているのか、また、何を目的に訪れてどんな施設などを求めているのかというようなことを、栄区にとどまらず他区や鎌倉市等とも連携して、幅広い調査を実施している。4年度の秋・冬に加えて、今年度の春・夏の計4回調査を実施する。

興石議員：円海山のハイキングコースを中心に調査を行うということか。

齊藤誓区政推進課長：その通り。実際にハイキングされている方に対面でヒアリングしている。

興石議員：京浜急行電鉄が所有していた大丸山近郊緑地の土地を市が買い取ることとなり、いよいよ本格的に円海山のハイキングコース整備に取り組む時期が来ていると思う。鎌倉に向かう外国人観光客も増えてくると思うので、必要な施設やベンチを配置するとか、歩いている方が小休憩したり、トイレを使ったりというようなことができるように、ぜひ力をいれてやっていただきたい。台風リスやハクビシンなど、生活被害を与える野生動物の被害が発生しているので、その点も局と連携して、横浜市で最大規模である円海山・北鎌倉近郊緑地の整備を進めていただきたい。

興石議員：地域の学び場事業について、中間支援組織の支援とは、どのような組織を想定しているのか。

齊藤誓区政推進課長：主にケアプラザを想定しており、ケアプラザで講座を企画する。

興石議員：住民発意で動いているようなNPO法人や社会福祉法人などは想定していないのか。

齊藤誓区政推進課長：本事業は区民の方の地域における学びの場を提供するもので、その学びの場や研修企画を区との協働ということでケアプラザに依頼している。

興石議員：規模としては小さいが、細分化した自主的な活動をしている方々もいろいろなノウハウを持っているので、そういった活動を支援することで栄区ならではの中間支援団体が育っていくのではないかと思う。先ほども議論となっていた民生委員児童委員協議会や民生委員の方々の担い手不足についても、様々な勉強の機会や研修の機会を得ることで、民生委員をやってみようという機運醸成につながるのではないか。中間支援組織の捉え方を幅広くしてはどうかと思う。

齊藤誓区政推進課長：本事業は学び場の設定を主に取り組んでいる。みんなが主役のまちづくり協働推進事業において、様々な活動に取り組む方を支援している。ご指摘のような団体が新しい事業に取り組みたいというときには、この事業で支援していきたい。

興石議員：栄の歴史・文化事業に関連して、栄区の歴史資産や文化資産を次世代に引き継ごうと活動している団体が多く、その活動を常設で掲示する場所もある。そのひとつとして、本郷台駅前に区が設置している掲示板があるが、掲出しているパンフレットが、作成時期の古いものが残っている。最新のものに貼り替えていただきたいし、そのスペースを有効活用していただきたい。

セーフコミュニティ事業について、活動成果を記録に残すということはとてもありがたいが、一点確認したい。当時のセーフコミュニティは、WHOの一部門で、スウェーデンに本部を置き、オセアニア地域を束ねているのが韓国という、世界基準の枠組みに日本の一区役所が名乗りをあげたというところに面白みがあった。その再認証を取得しないということとなって、活動成果を記録に残すのであれば、単に7連合地域活動の実績を載せるのではなく、セーフコミュニティとは何だったのかという検証ができていなければ毎度1,000万ほどの事業費を投じて2期も再認証を受けてきた意味がない。検証はしっかりやっていただきたい。WHOやセーフコミュニティの本部が世界に対してどのように栄区の活動を発信してくれたのか、日本国内でセーフコミュニティ認証地域との連携はどうだったのか、そういったことも検証していくべき。その検証の結果により、栄区はもともと地域活動に熱心なまちだが、ただ単に日頃の活動を評価してもらったのではなく、自分たちの地域活動は世界基準にまで達するものなのだと区民の方々が感じることはできるはず。区長の考えを伺いたい。

堀口区長：4月に着任して以来、地域の方が「SC」や「セーフコミュニティ」という言葉を自然に発していらっしゃることに驚いた。それほど熱心にセーフコミュニティという活動に取り組まれたのだなということを日々感じている。ご指摘のとおり、単なる記録ではなく、これまでの記録とともにセーフコミュニティの取組がこれからどう生かされるべきかということも踏まえたうえで、しっかりと作成していきたいと考えている。

興石議員：この取組を過去のものにするのではなく、今後にも生かせる、そういう歴史を持っているということを残していただきたい。

民生委員の負担軽減に向けた基礎調査について、これは栄区の取組ということで、ぜひ全区に共有していただきたい。数日前に町内会の会長さんや常任役員の方と話をしたが、回覧で回したり、様々な試みをしてはなお、担い手が見つからない。いよいよ危機的状況だと思うが、区としてはどのように状況を把握しているのか。

齋藤修身福祉保健課長：民生委員・児童委員に関しては、栄区は従来、充足率が高くて、前期は最終的に 100%になっていた。改選後、定数 163 名のうち 150 名が委嘱されている。特に高齢化が進んでいる地区で、多くの欠員が出ているということについて、自治会町内会の方とも共有している。委嘱委員の中でも民生委員・児童委員は国の制度であるため一番ハードルの高い委嘱委員で、民生委員法に体系づけられ 100 年以上続いている制度であり、国への制度改正の要望なども含めて進めていかなければと思っている。区役所の福祉保健課としてできることは、やはり区レベルで地域や現委員のお悩みや要望を丹念に伺うことであると考えている。現在、定員超過や町内会エリアを越えて担当世帯を持たなければいけないような民生委員・児童委員もいらっしゃるので、担当するエリアは町内会ごとにしてほしいとか、様々な細かい要望を区として把握していきたい。

また、欠員地区では、民生委員・児童委員が欠けてしまうことで生じる課題を丁寧に自治会町内会の方々にもご説明して、民生委員・児童委員の重責をご理解いただいたうえで、協力できることがないか提案していきたいと思っている。

民生委員・児童委員からお話を聞くと、一人暮らしのご高齢の方が、電球の球を替えてほしいとか、テレビのリモコンが見当たらないから探してほしいとか、日常の些細な相談をしてしまうとのこと。隣近所の皆さんのお力があれば民生委員・児童委員の負担も減り、隣近所、地域の絆も深まり、そういった活動を通じて次世代の民生委員・児童委員を探すことにもつながってくるのではないかと考えている。今後、民生委員・児童委員協議会で意見を伺いながら考えていきたい。また健康福祉局を通じてこれを全

市的に展開する、一助となるように取り組んでいきたい。

興石議員：とても分かりやすい説明でありがたい。栄区内には電球を替える、雨戸をあける、二階の窓を開けるなど、日常の些細な困りごとを解消しよう、福祉の手が届かない隙間をお互いさまでやろうという団体が7連合内も含め幾つも存在する。そういった団体に情報が届けばお互いさまでお隣さんが行ってくれるという状況になれば民生委員の負担軽減になると思う。先ほど中間支援組織について発言したのは、なかなか見えてこないものの組織化してやっているお互いさまの団体というのが栄区には複数存在するので、その方たちに活躍していただけるような仕組みづくりが必要であると思っているからだが、何か課題があるのであれば教えていただきたい。

齋藤修身福祉保健課長：相互の情報共有に課題があると思う。また、民生委員・児童委員の活動では個人情報の問題があって、なかなか共有が進められないという話も聞いているので、その辺の理解を進めていく必要があると思う。活動について共有できるところは共有して、支援すべき人の了承があれば個人情報の問題も解消できるので、そういったことが地域の中にも浸透させていかなければと考えている。自治会町内会の役員の方々と民生委員・児童委員の方々が共有して、民生委員・児童委員お一人に負担をかけるのではなく、皆で支えあう地域社会をつくっていけるような提案にしていきたいと思っている。

興石議員：社会福祉協議会とも連携しながら進めていただきたい。

本郷台駅周辺のまちづくり推進について、活動そのものを将来の公共施設の再整備の検討材料にするという、ソフト的な活動をハード面に生かすというような記載があるが、それはどのプラットフォームでやっていくイメージなのか、教えていただきたい。

齋藤誓区政推進課長：ソフト面とは、これまで定期的で開催していた比較的大きめのイベントのこと。本郷台駅前の広いスペースがあるが今後再編していく中で、適切なスペースを検討する材料にしていく。

興石議員：現状を維持するのがベストかどうかは分からないが、私は今の広いスペースの状況がとても良いと思っているので、ぜひお願いしたい。

また、マンションの防災について、建築局がよこはま防災力向上マンション認定制度を行っていて、その第1号認定を受けたマンションが栄区にある。マンション管理適正化法の法改正が施行されていることもあり、栄区としてももっと、マンションの皆さんに管理計画の有無や困りごとなどを調査すべきではと思っているが、何か考えはあるか。

伏見和久総務課長：ご指摘のマンションについては、住民の方が積極的に取り組んでいて建築局の認定を受けた。昨年度、一定規模のマンションを抽出して、制度のご案内や取組についてヒアリングも含めて実施している。というのも、地域防災拠点に避難されるよりも、お住いの堅固なマンションにいたほうが安全なのは事実なので、建築局で進めている制度や、自主的な防災意識を高めるために周知をしていきたいと考えている。

興石議員：この取組は栄区のブランド力が向上し、マンションの資産価値も上がることで、子育て世代が栄区に増えていくきっかけになると思うのでぜひよろしくお願ひしたい。

猫ボランティア支援事業について、動物に対する価値観は人それぞれで、不衛生でよくない存在と考える人もいれば、その地域の潤いになってくれるいい生き物と考える人もいる。猫ボランティアが活動しやすいように、地域猫を捕獲して去勢手術をしてまた地域に戻すという考えを行政として持っていることを区民に周知していただきたい。

古家浩一生活衛生課長：ご指摘のとおり猫についてはさまざまな考えの方向がいらっしゃる。地域猫という考え方やTNR（Trap/Neuter/Return：捕獲し、去勢手術を行い、元の場所に戻す）の考え方などについて、広報などにより啓発していきたいと考えている。

興石議員：ぜひよろしくお願ひしたい。パンフレットなどもぜひ作成していただきたい。

これは要望だが、水道局所有の建物を利用している次世代交流ステーションで雨漏りをしているので早急に対応をお願いしたい。また、この事業は地域子育て拠点や青少年の居場所など所管部署や利用対象者が異なる事業を一つの建物の中で行っているということが他区と異なる栄区の特徴であると思う。今後の運営

について見通しが立っているのか、考えを共有していただきたいが、いかがか。

大野福祉保健センター担当部長：ご指摘の雨漏りについては、建物を所有している水道局と調整をさせていただいているところ。何よりも利用者と運営事業者が健全に事業をできるようにしていきたい。施設の老朽化や、残念ながら放課後デイサービスの事業者が撤退してしまったという状況など含めて、十数年前に次世代交流ステーションの運営を開始した頃とは社会情勢や状況が変化しているので、その点も踏まえて、区としては何が最良なのかという検討を進めて、議員の皆さまにも説明させていただきたいと考えている。

輿石議員：自分の立場と違う人が身近にいるということがボランティア精神を養うことになり、その延長線上に民生委員の担い手や社会貢献に携わる人が増えて、温かい区民が増えていくという大きなサイクルの一つでもあるので、次世代交流ステーションの意義はあると考える。頑張ってください。

大桑座長：さかえ・森の魅力づくり推進事業に関連して、以前鎌倉市長から鎌倉市内には宿泊施設が少ないという話を聞いた。リニューアルした上郷・森の家も宿泊施設として活用できることを、緑地PRの際にぜひ発信してほしい。

郊外住宅地の住環境保全と持続可能なまちづくりの推進について、空家問題については、できる限り早く対処していかなければいけないが、恐らく今後、どうしても追いつかない部分が出てくると思う。環状南線も通る庄戸、桂台、野七里等の地域については民間事業者の力も借りながら、うまくバランスを取りながら進めていく必要があると思う。この件についてはまた状況を教えていただきたい。

また、民生委員の担い手を増やすためにも、何でもかんでも民生委員にお願いするのではなく、様々な点で区切りを設定する必要があると思う。民生委員に限らず、少子高齢化と人口減少で全ての業界や業種で人がいない。ICTの活用ですべてを解決できるとも思えないし、ある程度線引きが必要だと思う。今回の負担軽減の調査は栄区のみで実施するのか、それとも全区一斉に実施していくのか。

	<p>齊藤修身福祉保健課長：今回は自主企画事業として栄区のみで実施する。 局とは連携しながら進めていきたい。</p> <p>大桑座長：栄区のみで実施しているということであれば、我々からも市会 や健康福祉局、もしくは国会等働きかけをしていくことになると思 うので、進捗状況や調査結果をぜひ教えていただきたい。</p> <p>また、次世代交流ステーションについても、建物の所管の水道 局との調整は我々もしっかり進めるのでよろしくお願ひしたい。</p> <p>大桑座長：ほかに発言がないようであれば本件は以上となる。</p> <p>会議報告書の作成については座長一任。了承</p>
備 考	